



福岡ひびき信用金庫 本店



直方信用金庫



門司信用金庫



築上信用金庫



新北九州信用金庫



小倉信用金庫



北九州中央信用金庫



若松信用金庫



北九州八幡信用金庫

この街と
いっしょに歩んで
1世紀

ANNUAL REPORT 2021

業務のご案内
ミニディクロージャー誌



あなたと共に、ハーモニー・バンク
福岡ひびき信用金庫

当金庫の概要

(令和3年3月31日現在)

設立	大正13年1月
本店所在地	北九州市八幡東区尾倉2-8-1
出資金	34億66百万円
会員数	73,150人
役員数	597人
店舗数	45店舗（代理店1店舗を含む）
営業区域	福岡県一円 山口県下関市 大分県中津市



経営理念

1. 地域社会の繁栄ある未来を希い、地域とともに歩みます。（地域繁栄、金庫共栄）
2. 健全経営と独自性発揮で、お取引先の要請に応えます。（健全経営、独自性発揮）
3. 知性を磨き、創意と工夫をもって活力ある信用金庫を築きます。（知性と創意で活力金庫）

基本方針

1. 地域の人々の幸福と繁栄を希い、地域の豊かな未来づくりを使命とします。
2. 健全経営をモットーに、お客様のニーズに素早く対応し信頼される金庫にします。
3. 日々、豊かな人間性の向上に努め、活力ある職場と職員の豊かな生活の実現に努めます。



CONTENTS

地域社会とひびしん	2
業績トピックス	3
地域活性化に対する取組み	5
「新型コロナウイルス感染症」への対応について	7
店舗のご案内	8
事業の概況等	9

当金庫は、福岡県一円と山口県下関市、大分県中津市を事業区域として、地元の中小企業や住民の皆さまが会員となってお互いに助け合い、お互いに発展していくことを共通の理念として運営されている相互扶助型の金融機関です。

地元の皆さまからお預りした大切な資金（預金積金）は、地元で資金を必要とするお客様に融資を行って、事業や生活の繁栄のお手伝いをするとともに、地域社会の一員として地元の中小企業や住民の皆さまとの強いネットワークを形成し、地域経済の持続的発展に努めております。また、金融機能の提供にとどまらず、企業としての社会的責任（CSR）を自覚し、文化・環境・教育といった面も視野に入れ、広く地域社会の活性化に積極的に取り組んでおります。



地域のお客様・会員の皆さま

《出資金》

会員数 73,150人

残高 34億円

中小企業の経営支援等

- しんきん合同商談会
- ひびしん女性創業塾
- 各種経営セミナー

など



地域振興への貢献

- 福岡ひびき経営大学
- 福岡ひびき経営者賞
- ひびしん俳句大賞

など



サークル活動

- ひびしん同友会
- ひびしんニューリーダー会
- ひびしんすみれ会・寿会
- ひびしんインクスクラブ

など



《貸出金》

3,916億円

お客様からお預りした預金積金は、幅広い資金ニーズにお応えし、地域にお住まいの方・事業者の方々に融資し豊かな暮らしや事業発展のお手伝いをいたしております。

《預金積金》

7,560億円

お客様の資産づくりのお手伝いをさせていただくため、目的や期間に応じて選択していただけますよう、新商品の開発や一層のサービス充実に努めてまいります。

福岡ひびき信用金庫

役職員数 597人

店舗数 45店舗

(代理店1店舗を含む)

自己資本比率 11.58%

■有価証券 2,565億円

お預りしている資金の一部は、有価証券等で運用しております。運用にあたっては、公共債等を中心に安全な運用に努めております。

令和3年3月31日現在

預金積金の推移

令和2年度は、夏期キャンペーンとして、「花あふれる定期預金」を、また冬期キャンペーンでは懸賞金付定期預金「マネーヒット」を販売し、夏期は72億円、冬期は71億円の合計143億円を獲得致しました。結果、定期預金残高は前期比38億円の増加となりました。

また、要求性預金残高は新型コロナウイルス感染症対策資金や各種助成金等の歩留まり分の影響もあり、前期比561億円増加しました。

この結果、令和2年度の預金積金残高は、前年比612億円増加し7,560億円となりました。

預金積金残高 **7,560**億円



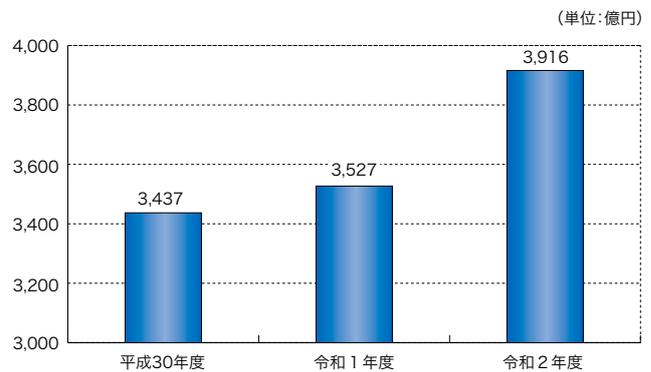
貸出金の推移

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策融資を取引先3,818先に対し696億円実行しました。貸出先数では前期比691先増加し、証書貸付の残高が前期比518億円と大幅に増加しました。

事業性融資は新規の取引先の拡大などにより388億円増加。また、消費者ローンで8億円増加、住宅ローンで2億円増加となりましたが、カードローンが9億円減少した為、個人向け融資につきましては1億円の増加に留まりました。

その結果、貸出金残高は、前期比389億円増加の3,916億円となりました。

貸出金残高 **3,916**億円

業務純益^{*1}/コア業務純益^{*2}の推移

貸出金利息収入や有価証券利息配当金の資金運用収益は増加したものの、国債等債券売却損や償還損の増加等により令和2年度の業務純益は▲535百万円となりました。

また、業務純益から一般貸倒引当金繰入額や国債等債券関係損益を除いたコア業務純益は、前年比334百万円増加し、3,268百万円となりました。

*1 業務純益・・・貸出金や有価証券等の受入利息や手数料などの収入から、預金等の支払利息や支払手数料、経費を差し引いたものです。

*2 コア業務純益・・・業務純益から、一般貸倒引当金および国債等債券関係損益を除いたものです。

業務純益 ▲535百万円

コア業務純益 3,268百万円



業績トピックス

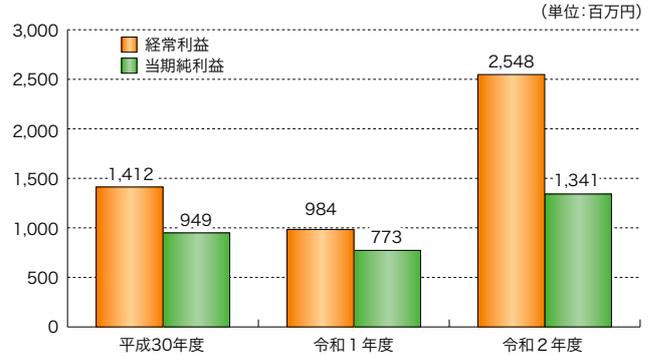
経常利益/当期純利益の推移

株式等売却益や金銭の信託運用益等の臨時収益が前年比増加した為、令和2年度の経常利益は前年比1,564百万円増加し、2,548百万円となりました。

この結果、当期純利益は前年比567百万円増加し、1,341百万円となりました。

経常利益 2,548百万円

当期純利益 1,341百万円



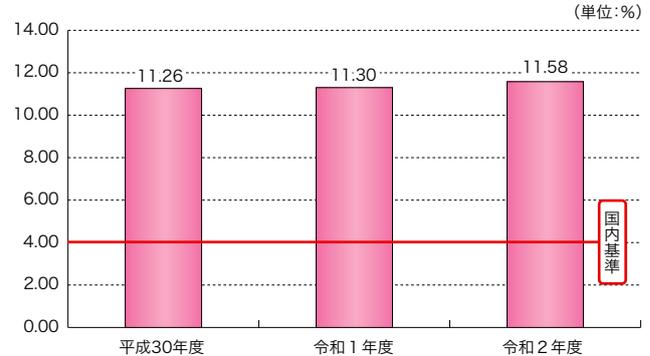
単体自己資本比率

当金庫の令和2年度の単体自己資本比率は、11.58%となりました。

国内基準(4%)を大幅に上回る高い水準を維持しております。

※平成25年度末より、自己資本比率規制に関する金融庁告示第19号の一部改正に伴い、パーゼルIII基準により自己資本比率を算出しております。

自己資本比率 11.58%



不良債権比率

令和2年度の金融再生法に基づく不良債権額は、前年比3億62百万円減少し107億42百万円となりました。

この結果、当金庫の不良債権比率は前年比0.40ポイント改善し、2.73%となりました。

当金庫は、法令等に基づき厳格な償却・引当を行っております。引き続き、健全な資産の維持に努めてまいります。

不良債権比率 2.73%

